2016 熊本地震災被災地の障害者を救おう！

熊本地震大阪障害者支援ニュース vol.5

2016 年 6 月 20 日（月）　2016 熊本地震大阪障害者緊急対策連絡会本部（TEL06-6697-9005）

1、熊本の状況

6 月 5 日～11 日まで、支援活動に参加した「わかたけ」（枚方市）の久代さんから、支援活動に参加してのレポートが送られてきています。活動に参加しての感想を紹介します。

熊本市内などで周りの景色や人の往来が日常と変わりなく行われている様子を見て、復興が進み日常生活が戻りつつあるのかと思いました。ですが、震源地となった益城町を訪れると沢山の住宅が倒壊をし、未だ多くの方々が避難所での生活を余儀なくされている状況を見て強いショックを受けました。避難所での生活は大変不自由なもので、主に寝泊まりをしている所は狭い空間で隣とは薄い布一枚で隔てただけの場所でした。そのため、避難所の駐車場で車中泊をしている方々も沢山おられました。震災から2ヶ月近く経過してやっと仮設住宅が作られ始めていましたが、段差があったり扉が狭いなど障害者の方々にとってはまだまだ生活がしづらい状況が続くと思われました。

私達のクールは熊本市内の訪問調査を行いました。一見被害が少ないように見える地域でも、一歩住宅地の中に足を踏み入れると古くなった住居など大きな被害を受けた家が数多くありました。ですが、行き先がないなどの理由で避難指示書が貼られている危険な住宅でやむなく生活を続けている方々もおられました。

日常生活に戻る事ができる方がいる一方で障害者や高齢者、生活困窮者など弱い立場の人が未だ取り残されてしまっている状況でした。また、震災以前から生きづらさを抱えている方々が今回の事でさらに問題が深まってしまうことになった。特に今回の調査で目立ったのが、福祉サービスを利用していない障害者の子供を高齢者の親が介護をしているケースが多く見られました。私達訪問調査員は『福祉サービスの利用のしかたがわからない。』『誰に相談をしたらいいのかわからない。』などの声を出来るだけ沢山、現地の相談員に繋げるように努力しました。すぐに対応をすることは難しいと思いますが、一人でも多くの方々の思いをつなげるかけ橋になれればと思いました。

今回の支援活動を通して、沢山の熊本の方々と触れ合う事ができました。少しでも力になれればと思い参加をしたのですが、『ありがとう』『がんばってね』など、あたたかい言葉を沢山頂き、逆に私が元気を頂くことができました。

すべての人が安心して元の生活に戻れるまで、できる限り支援活動を続けていきたいと思います。

2、きょうされん緊急企画

きょうされん（全国）では、夏季販売事業に伴う緊急企画として、熊本県内で製造されている商品の取り扱いを開始されています。現地に行かずともできる支援活動の一つです。ぜひご購入下さい（詳細は、きょうされん会員事業所まで）

※JDF 人員派遣は、日曜日現地入り、月曜支援活動開始～土曜日、終了（帰阪）というスケジュールで行われています。訪問活動（10 人）と現場支援（2 人）を基本に呼びかけられています。

現在６月中の体制は確定しており、７月①3 日～9 日、②10 日～16 日、③17 日～23 日、④24 日～30 日という期間を重点的に募集しています（大阪から各期間、2 名以上）のでご検討下さい。詳細は、大阪連絡会（担当：雨田）まで。